

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンボール中野504号
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
http://www.nihonkouren.jp

発行：毎月1日
2016年8月1日
No.312



鳥越さん最後の訴え＝7月30日新宿 (Facebookより)

東京都知事選選挙の結果について

鳥越さんの想いを高齢期運動に引き継ごう ～ 日本高齢者大会で鳥越さんの話を聞こう ～

日本高齢期運動連絡会藤谷恵三事務局長談話 2016年8月1日

7月30日、舛添要一前都知事が税金の公私混同、政治資金の不正使用問題で辞職したことともなう東京都知事選の投票が行われ、野党4党（日本共産党、民進党、生活の党、社民党）の統一候補（生活者ネット推薦）でジャーナリストの鳥越俊太郎氏（76）は大健闘したものの、勝利できませんでした。

しかし、今度の選挙は大きな意義のある選挙でした。

市民の呼びかけで参院選から始まった野党共闘の流れは、首都・東京で三十数年ぶりの

野党統一という形に前進しました。

参議院選挙では野党がそれぞれ候補を擁立した首都東京で、野党と市民の共闘が発展したことは極めて重要です。大都市でも70年代の革新自治体誕生の経緯とは違う形で現実の政治を変える展望を開いたからです。今回の野党間の協力は、都政レベルだけでなく区市町村段階まで多面的に発展しました。初めて顔を合わせ、言葉を交わして共に闘った団体や組織が沢山あります。このことが今後の住民運動の可能性を大きく広げています。

また政策としても、国の政策だけでなく都



の政策でも、社会保障、子育て、格差是正、労働・賃金問題などで政党間の一致点が広がり、要求実現を目指す私たち高齢期運動を大きく励ますものでした。

鳥越さんは、「都民の声を聞く」姿勢を貫き、選挙期間中も政策を発展させました。大型開発優先の都政を変える「三つのよし」（住んでよし、働いてよし、環境によし）に都民の声を聞いて「学んでよし」を付け加え、「四つのよし」にしました。また「三つのゼロ」（保育所待機児童ゼロ、特養待機高齢者ゼロ、原発ゼロ）と「東京非核都市宣言」の旗を掲げ、参議院選挙の結果から改憲を阻止すること、戦後最悪の安倍政権の暴走をストッ

プさせる波を東京から起こすために選挙戦をたたかい抜きました。

私たちは、日本高齢期運動連絡会や第30回日本高齢者大会in東京中央実行委員会で確認した運動方針と重なるこれらの鳥越さんの公約、政策を実現するためお互いに力を尽くしたいと考えます。

また、鳥越さんは選挙後、「私の力不足がこの結果につながった」と話したあと「自公勢力に対抗するためには野党がまとまらなければダメだと思う。都知事選でも野党4党などのみなさんとの共闘で十分なたたかいができた。衆院選でも統一してたたかっていたきたい」と述べています。

当選した小池百合子氏は、「核武装もあり得る」と発言した人です。これからの東京都政をしっかり見守る必要があります。

また、鳥越さんの都議選後初めての講演が第30回日本高齢者大会in東京での記念講演になります。

鳥越さんの平和や憲法、安倍政治への想いを直接聞き、今後の運動の糧にしようではありませんか。

7・11「7月度高齢期運動推進事務局団体会議」開く

日本高齢期運動連絡会

日本高齢期運動連絡会は7月度高齢期運動推進団体会議を7月11日午後、東京都中野区の事務所で開催、13団体と事務局合わせ20人が出席しました。

1. 報告事項

各県・団体の活動報告

・選挙は2人区なので独自候補で頑張った（静岡・小高）、年金裁判1周年の学習会に参加した（長谷川）日本高連ニュースに間違いがあった。お詫びする、選挙のとりくみをおこなった（建交労・神田）、退職教職員の会から京都高連に出ており、今回近畿ブロックの担当になった。京都には高連連と退職者の会という総評のOB会の2つがある。一緒に高齢者大会を行っている。選挙ではかなり差をつけら

れたが、3年前の得票とはあまり差がない（京都・北村）、選挙中に社保平和委員会を開催した。選挙後の情勢を見て取り組みを考える（医療福祉生協連・大久保）、埼玉大会は11月29日午後から全体会だけ開催することにした（埼玉・保土田）参加目標を達成するために努力をしている。DVDを作成している。活用してください。新都知事に後援申請を出したい（東京・武市）生保受給者への攻撃が強まっている。高齢者大会の後に全国大会がある（全生連・木島）、2週間、選挙に取り組んできた。7/15、8/1、8/15に参加者集約する。神奈川の年金裁判が東京地裁で却下されたので、最高裁に特別抗告している（神奈川・大河原）、事務局あげて選挙に取り組んだ。

44県で年金裁判が始まりつつある。4500人ぐらいの大型裁判になる。月間で組合員が2,979人増えた。到達で925支部116,00人になった。厚労省交渉を14日に行う。記者会見を行う（全日本年金者組合・田中）、年金裁判は、71人で水戸地裁に提訴することになった。総会は7/29に行う（茨城・田中）、東京高連で新都知事への要求書を出す準備をしている（東京・小島）、選挙カフェに取り組みながら選挙に臨んだ。「〇〇で困っているの私だ」の話が尽きない。介護や2重派遣などの悩みが街頭で話しかけられた（新婦人・山元）、みなと医療生協の会議や母親大会があり参加者確保に苦戦している。10/13に愛知の大会の準備を6団体で行っている（愛知・大鶴）、安倍政権の改憲方針に対応して憲法に関するパンフを作る。全国共同組織交流会に289の演題が出ている（民医連・多田）

2. 第30回日本高齢者大会in東京の準備について

1) 企画について（東京実行委員会からの提案を受けて）

①全体企画について、東京から出された全体企画スケジュールを確認した。

②講座・分科会企画について

・大正大学の10号館の女性トイレが少ないので仮設トイレの設置を検討することとした。

・三田線の西巣鴨駅の要員は2名では少ない。多くの方が西巣鴨駅を使うことが予想されるので要員を増やすこととした。

・講座・分科会の終了後全員が大正大学から

一度に出るのは難しいのでその対策が必要となっている。

③要員について

・要員についての申し合わせ事項を確認した。それぞれの要員の指揮体制などについてはこれから東京実行委員会で決定し要請することとした。

2) 大会予算の執行状況と今後の見込みについて①行事別の予算と執行状況を過去と比較し、検討した。1日目に熊本カンパを呼びかけ、2日目に大会カンパを呼びかけることにした。

3) 基調報告2次案について

①第3回中央実行委員会の論議と参議院選挙結果の反映について

・第2次案の内容を確認した。11の1人区で勝利したことを評価し、市民の共同をさらに進める必要があり、高齢期運動もその重要な一翼であることを追記した。政治情勢を踏まえてさらに変更することとした。最低賃金要求額は、1,000円ではなく1,500円とすることとした。「オール沖縄」のとりくみと参議院議員選挙結果を重視し、運動のあり方として評価し加筆することとした。発言原稿は別途、8月の事務局会議に出すこととした。

4) 全国の大会参加とりくみ状況について

3. 沖縄医療生協への要請文について

4. 日本高連25期方針の実践関連の協議

1) 30周年記念グッズについてプロジェクトチームで論議することとした。

2) 行政交渉について7月下旬に日程設定を要請中。要求項目案を7月23日までに集約する

第30回日本高齢者大会in東京をみんなの力で成功させよう

「第5回東京実行委員会」に60人

東京実行委員会

8月3日午後、参議院議員会館で第30回日本高齢者大会in東京の第5回東京実行委員会総会が開催され、都下全域から60人が参加しました。

総会では最初に東京大会宣伝用のDVDを参加者全員で視聴し、議長に小嶋副実行委員長を選出しました。

開会挨拶を金子東京実行委員長代理が行い、

参議院選挙と東京都議選と2つの選挙で市民と野党の共同が進んだことを評価し、東京大会の成功で戦争法廃止、憲法を守る流れを強めようと述べました。

続いて、中央実行委員会からの挨拶を藤谷事務局長が行い、東京都知事選挙では鳥越俊太郎さんの当選はかなわなかったが、参議院選挙に続いて野党共闘が実現し、安倍政権の



暴走を止めるのはこの道しかないことがはっきりしたと述べました。そして鳥越さんの選挙後初めての講演が第30回日本高齢者大会in東京の記念講演になり、みんなで鳥越さんの奮闘をたたえるとともに憲法や民主主義への想いを聞くことができることを訴えて参加を増やそうと呼びかけました。

次に、東京実行委員会の菅谷事務局長が、第5回実行委員会総会以降の経過報告、企画の内容などについて報告しました。

討論では、三多摩実行委員会から参加者が800人を超えたことが報告され、高齢者大会を機に都政に向かって運動を行い、高齢期運動が東京の高齢者の希望になるようにしようと呼びかけがありました。東京実行委員会からは、目標では2日で参加者が6,000を超え、東京や福島の水産店の準備が進んでいること、東京保健生協の実行委員会では、200人目標で156人の参加が確認でき、資金作りも一緒にやり35万円が集まっ他との報告がありました。世田谷区実行委員会からは、普段の付き合いを活かして区長のメッセージをもらったこと、シニア合唱団からは、500人の合唱をめざして7回実行委員会を開き300名まで確認ができていたことなどが報告されました。

最後に東京実行委員会の石川実行委員長が、『NHKの『スーパープレゼンテーション』の『幸福な人生の秘密』という番組で、幸せになるのは金持ちではなく、『良い人間関係を持っている人』だという研究結果を放送していました。高齢者運動はまさにそういう人の集まりです。最後まで頑張っ全国からの参加者を受け入れましよう』と挨拶しました。

地域に高齢期運動連絡会を

7.25 「第16回茨城県高齢期運動連絡会総会」

茨城県高齢期運動連絡会

茨城県高齢期運動連絡会第16回総会は、水戸市ボランティア会館で開催されました。近沢重男会長の「茨城の高齢期運動は80%が高齢者大会の取り組み対策になっている。地域の高齢者の要求に沿った運動を進めるべきだ」との主催者挨拶のあと、第一部記念講演にうつり「高齢期の課題と日本高齢者大会」と題して、日本高齢期運動連絡会の藤谷 恵三事務局長が手製の資料を活用しながら話されました。

藤谷氏は、まず野党共闘ができる過程を写真で示しました。

昨年5月の憲法集会の壇上で共産党の志位委員長が長妻民主党代表代行に手を差し伸べているのに拒否している姿が写っていました。今年5月には同じ憲法集会で志位委員長と岡田民進党代表が、がっちり手を握り合う姿になっていました。わずか1年間で野党共闘の発展を見ることができます。

その結果、先の参議院選挙では32選挙区で野党4党共闘が成立し、11選挙区で勝利しました。こうした紹介の後、高齢者をめぐる情勢の特徴として、

(1) 安倍政権が作り出している高齢者の「3つ

の危機」として

①憲法(平和主義,立憲主義)の危機

②アベノ ミクスによる社会保障の削減と貧困化の危機

③人権・言論の自由危機

を挙げ、安倍政権下で急速に進むこれらの危機と同時に、超高齢社会の進行によって生まれている危機もますます深刻化していることを強調しました。

(2)こうした中、危機を乗り越える高齢期運動の取り組みとして

①高齢者の経験とつながりを戦争法廃止の運動に生かす

②戦争法とアベノミクスの2つの危機を一緒に克服するような運動をつくる

③目の前の高齢者の困難に寄り添い、解決をめざす運動をつくる

とし、特に地域密着での解決、地域の高齢者運動連絡会づくりを訴えました。

質疑の中では、地域の高齢者運動と連絡会づくりについて意見が集中しました。

二部総会は、鴨志田年金者組合書記長を議長に2015年度活動及び決算、2016年活動方針及び予算が一括して提案されました。

意見として、地域連絡会作り、県高齢者大会後の組織化をどうするか、団体会員をもっと増やすことなどが出されました。

役員選出では新たに副会長大内孝夫さん、運営委員に日立地域から須田 昭さんが選出されました。

【第16回茨城県高齢者大会開催地一日立市】



会長	近沢 重男
副会長	大内 隆夫
事務局長	田中 英男
事務局次長	伊藤 良徳
運営委員	水野快一郎
	若林 均
	小林 清
	高見沢 伸子
	堀 春代
	須田 昭
会計監査	中庭 緋佐子

(「茨城の高齢期」) 7月30日発行より)

日本高齢者大会 in 東京に参加し高齢期運動を前進させよう 第2回幹事会開く

神奈川県高齢期運動連絡会

神奈川県高齢期運動連絡会は、第2回幹事会を6月17日に開催し、8月に東京で開催される日本高齢者大会の参加留意点、秋に予定している「輝けかながわ高齢期のつどいin湘南」などを確認しました。

【報告確認事項】

1. 高齢者をめぐる情勢

年金者組合・神奈川県本部が訴えている裁判「年金引下げ違憲訴訟」は、「横浜地裁での審議を求めている」が、東京高裁は棄却し

ました。

「裁判権の権利」を求め最高裁に特別抗告したこと。1周年を記念して7月15日に学習決起集会を開催します。

神奈川県社保協は後期高齢者医療対策方針として、広域連合議会に陳情書の提出、広域連合議員への個別要請、特例軽減廃止撤回を求める運動、集団不服審査請求などについて闘いを準備します。横浜市と川崎市の介護要支援者の「総合事業」の移行に伴い、この間、市当局担当者と懇談し、そこで明らかになった「問題点」等。

2. 第12回「輝け高齢期のつどい」について

第1回実行委員会を5月19日に開催し、「つどい」は11月15日(火)、藤沢市民会館小ホールで開催することが決まりました。

【団体報告】

県・民医連は、「医療・介護制度改悪」について横浜駅前の宣伝行動で、飲み物やケーキの差し入れがあるなど、以前に比べ反応が良い。7月23日に開催するピースフェスタは、宝田明氏をメイン講師として予定。民医連の各法人は、日本高齢者大会の参加者は、6月に総代会等を予定しているが、県・民医連からの分担にもとづき、組織していくと報告。年金者組合は、委員長名で「組織人員の5%」を目標に参加者を組織。大会2日目の大合唱に30数人で参加を予定し、毎月合唱の練習をしています。「年金裁判1周年」の学習決起集会と桜木町駅前での大宣伝行動を決定。神奈川県社保協は、毎年6月に行っている総会を7月23日に延期したこと。全県いっせい宣伝行動での県民の反応について説明をしました。生健会は、6月21日に第3回公判が予定され、19日の日曜日は伊勢佐木町で大宣伝を実施。川崎社保協は、「介護保険と老人医療がセットで改悪」の捉え方をすること。小児医療の一部負担500円を横浜市、川崎市で認めると全県に波及すると、その危険性を報告。

【確認事項】

1. 第30回日本高齢者大会（東京）の取り組み

(1)東京大会のプログラムと東京実行委員会の



年金県本部でコーラスの練習

「日本高齢者大会 in東京」全体会500人の大合唱参加に向けて年金組合神奈川さわやか合唱団は5月から毎月レッスンを行っています

準備状況などについて報告をうけ、都知事選が7月31日投票で行われることになった関係で、「隣県かながわの役割」が改めて重要であることを確認した。(2)分科会の要員(司会、受付、記録)と初日の受付要員の分担。(3)参加者の集約と参加費の納入など。(4)各団体の取り組み状況について

2、「高齢期のつどい」第2回実行委員会について

(1)名称…第12回「輝け高齢期かながわのつどいin湘南」(2)参加費は、1人500円で、広告料、援助金など広げ、その範囲で予算案を作成してもらう。(3)実行委員会事務局長団体…年金者組合県北・湘南ブロックからの選出は「困難」と出され、神奈川民医連を通じて医療生協かながわに要請中。(4)記念講演…宮澤由美先生が午前中の講演を了承となれば1人に絞ることにしました。(5)リレートークの主テーマについては、開催時期の運動課題を想定し、湘南地域の加盟団体(実行委員会参加団体)から行ってもらうことにしました。(6)文化企画…湘南地域の団体の出演を目標に「参加型」で広げることにしました。

「賛助会員の拡大運動」の取り組みについて総会で確認した賛助会員増やしを9月、10月に設定し、「呼びかけ」と「賛同」の文書を7月中に作成、40人を目標に取り組みます。各加盟団体は、機関会議等で、改めて意義と役割などを議論いただき、賛助会員となっていただくことを訴えて下さい。

(「輝け高齢期」第257号より)

7・21 「日本高齢期運動サポートセンター第5回社員総会」

(一社) 日本高齢期運動サポートセンター

7月21日午後6時から日本高齢期運動サポートセンターの第5回社員総会が中野事務所で開催されました。総会には、社員44人のうち25人が出席(書面議決含む)、すべての議案が全員一致で承認されました。

総会では、井上英夫理事長が議長に就き、鐘ヶ江専務が第1号議案「2015年度事業報告・会計報告及び監査報告」について報告を行いました。第30回日本高齢者大会in東京の成功に向けて「高齢期保障の歩みと高齢期運動」、研究助成事業の「医療福祉生協による地域包括ケアの展開」の2つの出版事業を行ったこと、2回にわたり国連に代表を送り、高齢者人権条約の制定に向けた活動を行ったことなど、活動の特徴点を述べました。会計報告では、研究助成や国際活動などの費用がかさみ、わずかながら赤字の決算となったこと報告し

ました。

引き続き、鐘ヶ江専務が、第2号議案「2016年度事業計画並びに予算案」を提案。会員の拡大にとりくむこと、サポートセンターが研究者を集めて地域調査にとりくむこと、高齢期運動ブックレットNo.3を発行すること、日本高齢期運動連絡会の支援の方法の変更などの特徴点を述べました。

社員からは、高齢期運動レポートの取り扱いや30周年記念事業などについて意見が出されました。

討議ののちに全議案が満場一致で可決され、最後に、井上理事長が高齢期運動の役割が高まっている中、理事会を先頭に会員拡大や研究事業の推進に取り組もうと挨拶し、閉会しました。

きょうされん常任理事会が緊急声明 障害者入所施設で起こった悲惨な事件について

きょうされん常任理事会 2016年7月26日

本日未明、神奈川県相模原市の障害者入所施設で起こった悲惨な事件は、日本各地に大きなショックをもたらしました。とりわけ障害のある当事者や家族、関係者の受けた衝撃、そして不安や悲しみは言葉であらわすことができません。

なにより、犠牲となった障害のある当事者、そのご家族に哀悼の意を表するとともに、負傷した方たちの一日も早い回復を祈ります。ならびに、同施設で事件に遭遇した方たちの心の傷が時間をかけながら癒されることを切に願います。

容疑者の卑劣な行為は、いかなる理由があるにせよ決して許すことはできません。一方で、なぜこのような事件が障害者入所施設で起こってしまったのか、戸惑いと疑念が晴れません。

こうした事件を二度とくり返さないためにも、事件の背景や真相が究明されることを願います。

なお、報道によると容疑者には入院歴があったとされていますが、今後、精神障害に対する誤った認識や差別が助長されないよう、各機関には慎重な対応を求めます。

最後に、本事件の報道に触れて、全国の障害のある当事者、その家族、関係者には動揺と不安が広がっています。障害のある当事者と家族のみなさんには、できるかぎり冷静さを失うことなく、普段どおりの生活を送られることを呼びかけます。あわせて、関係者のみなさんには、障害のある人とその家族の気持ちに寄りそい、個々に応じた特別な支援・援助を行なっていくことを呼びかけます

巣鴨駅に大会宣伝ボードを設置

第30回日本高齢者大会in東京中央実行委員会では、1日目に講座や分科会が開催される大正大学の近くの巣鴨駅に高齢者大会の開催を知らせるデジタル広告板を設置しました。

平和に人間らしく生きるために
みんなて手をつなごう!

1万人の高齢者の祭典

第30回 

日本高齢者大会in東京

THE 30th CONVENTION OF JAPAN OLDER PERSONS

8月28日 日	8月29日 月
13:00~16:30	10:00~13:00
大正大学・巣鴨 講座・分科会	東京国際フォーラム ホールA(全体会)

全体会 記念講演

「憲法70年 未来へのメッセージ」



ニュースの職人
鳥越 俊太郎氏

ジャーナリスト。
元「サンデー毎日」編集長。テレビキャスター。
2005年大腸がん発覚。4度の手術を経て、健康的なライフスタイルを貫き、現在「ニュースの職人」として様々なメディアで活躍中。

日本高齢期運動連絡会 [住所]中野区中央5-48-5 [TEL]03-3384-6654

事務局日より

30周年記念事業として今月号よりカラーでニュースをお届けしています